

別表（第7条関係）

平 均 値 手 法

平均値手法は、OIML（国際法定計量機関）の勧告に基づく抜取検査方法の推奨例であって、特定物象量に関し、内容量の表記がなされている商品の内容容量についての立入検査に用いるためのものである。

従って、平均値手法は、事業所における製造又は詰込み時の管理には不向きであって、事業所においては、より厳しい管理手法を用いる必要がある。

1 検査の対象となる商品

内容量表示された特定商品を対象とする。

2 検査の対象となるロット

- （1） 検査ロットは、同一の工場等において同一の日に同一の方法により容器に入れられた特定商品であって、その数が連続して生産された150個以上のものであること。
- （2） 検査ロットは、生産工程中の検査システムを適合したもので、明確に定義された時間経過内に生産されるすべての商品で構成されるものであること。
- （3） 検査ロットは、包装又は容器詰め工程上にあるロットや、すでに包装又は容器詰めされたロットを原則とするが、在庫品についてもロットの形成を可能とする。

3 検査の手順

（1） 検査ロットの指定と事業所への通知

検査対象商品の生産状況、生産設備の能力等を考慮して、検査の対象とするロットの形態及びロットの大きさを指定し、その旨を事業所へ通知する。

なお、検査ロットは検査の開始時に指定し、検査中又は検査終了後にロットの変更を行ってはならない。

また、同一ロットに対して2回以上検査を行うことは避けること。

（2） 検査資料の抽出

- ① 生産ラインから抽出する場合は、指定した検査ロットを生産する時間で、ほぼ一定間隔に32個又は80個を抽出する。

この場合、特定の充填機等からの商品のみを抽出することにならないよう配慮すること。

- ② 検査ロットが10,000個より大きい場合は、可能な限りロットを分割すること。
- ③ 検査ロットのあらゆる部分から無作為抽出を心がけること。
- ④ 2以上のラインから単一のラインに集約されて流れる商品を検査ロットとする場合は、ロットを形成する商品の均一性に注意すること。特定ラインの商品について偏って

抜き取らないこと。

- ⑤ 倉庫で抽出する時、多大な負担等により無作為抽出が適当でない場合、事業所の了解を得て、他の適当な採取方法を行ってもよい。

(3) 検査資料の計量

A 検査に使用する質量計

検査に使用する質量計は、原則として次のとおりとする。

また、使用にあたっては、基準分銅等を用いて精度の確認を行うこと。

① 表記量が定量的の場合

表 記 量	目 量
5 g 以上 100 g 未満	10 mg
100 g 以上 1 kg 未満	100 mg
1 kg 以上 10 kg 未満	1 g
10 kg 以上 25 kg 以下	10 g

① 表記量が不定量的の場合

表 記 量	目 量
5 g 以上 1 kg 未満	100 mg
1 kg 以上 10 kg 未満	1 g
10 kg 以上 25 kg 以下	10 g

B 体積表記商品の場合

衡量法を原則とし、20℃における体積を基準とする。

この場合、検査に使用する質量計は上記A①及び②の表記量欄を準用し、グラムをミリリットルに、キログラムをリットルに読み替える。

C 風袋の計量

原則は、個々の風袋を計量するが、風袋量のバラツキが小さいものについては、風袋は風袋量に応じて3（枚、個等）以上を計量し、その平均値を求める方法でもよい。

D 内容量が不定量的の場合

過量又は不足の値は、表記量に対する過不足量のパーセントで表す。

E 記録紙

別紙様式のとおり。

(4) 計算手順

別添様式に記載の手順に基づき計算する。

(5) 検査ロットの判定

① 小さいロットの場合（1ロットが150個から4000個の場合）

抽出検査数

$$n = 32 \text{ 個}$$

平均値の判定

$$\rho \geq A - 0.485s \quad \text{であれば適正}$$

ρ : 抽出した内容量の平均値

A : 表記内容量

s : 抽出した内容量の不偏分散の平方根（標準偏差）

又は、 ρ を過不足量（率）とした場合、 $A = 0$ となるので

$$\rho \geq -0.485s \quad \text{であれば適正}$$

量目公差を超える商品数の判定

$$C = 2 \quad (\text{量目公差を超える商品の数が2個まで適正})$$

検査ロットの総合判定

平均値の判定と量目公差を超える商品数の判定のいずれもが適正の場合に限って合格とする。

② 大きいロットの場合（1ロットが4000個を超える場合）

ロットが大きい場合は、分割して上記①の方法で検査するか、又は次の方法で行う。

抽出検査数

$$n = 80 \text{ 個}$$

平均値の判定

$$\rho \geq A - 0.295s \quad \text{であれば適正}$$

ρ : 抽出した内容量の平均値

A : 表記内容量

s : 抽出した内容量の不偏分散の平方根（標準偏差）

又は、 ρ を過不足量（率）とした場合、 $A = 0$ となるので

$$\rho \geq -0.295s \quad \text{であれば適正}$$

量目公差を超える商品数の判定

$$C = 5 \quad (\text{量目公差を超える商品の数が5個まで適正})$$

検査ロットの総合判定

平均値の判定と量目公差を超える商品数の判定のいずれもが適正の場合に限って合格とする。

(6) 計量値の桁数のとり方

① 表記量が定量的場合

表記内容量	過不足量	過不足量の 2乗	ρ 平均値	S 平方和	V 不偏分散
100未満	小数以下第 2位	小数以下第 4位	小数以下第 3位	小数以下第 4位	小数以下第 5位
1,000未満	小数以下第 1位	小数以下第 2位	小数以下第 2位	小数以下第 2位	小数以下第 3位
10,000未満	1の位	1の位	小数以下第 1位	1の位	小数以下第 1位
25,000未満	10の位	100の位	1の位	100の位	10の位

表記内容量	s 不偏分散の 平方根	0.485 S 0.295 S
100未満	小数以下第 3位	小数以下第 3位
1,000未満	小数以下第 2位	小数以下第 2位
10,000未満	小数以下第 1位	小数以下第 1位
25,000未満	1の位	1の位

② 表記量が不定量的場合

表記量が不定量的場合は、過不足量をパーセントで表し、小数以下第2位までとする。

過不足率 (%)	過不足率 の2乗	ρ 平均値	S 平方和	V 不偏分散	s 不偏分散 の平方根	0.485 S 0.295 S
小数以下 第2位	小数以下 第4位	小数以下 第3位	小数以下 第4位	小数以下 第5位	小数以下 第3位	小数以下 第3位